

## 平成28年度善誘館小学校外部評価書

平成29年3月 4日作成

学校関係者評価委員会

実施日：平成29年2月27日（月）午後4時20分から5時

会場：善誘館小学校校長室

参加者：学校関係者評価委員 加賀美研一（学校評議員）・小倉正夫（学校評議員）

林 昌明（学校評議員）

高原幹夫（琢美地区連合自治会長）

内藤久芳（富士川地区連合自治会長）

林 昌明（PTA会長）・内藤 香（PTA副会長）

学校側

川口ますみ（学校長）・上田雅也（教頭）・坂本 暢（教務主任）

### 1 学校側からの説明

#### ・自己評価結果についての説明（教頭）

「善誘館小学校自己評価書」及び「善誘館小学校自己評価・児童用アンケート・保護者用アンケート分析結果」に基づく説明

### 2 協議（議長：林 PTA会長）

自己評価書から受ける善誘館小学校の実態（本年度の重点目標への取組についての特徴、要望等）

- ・学校で行われた百人一首大会がとても熱心に行われた12月に入り、木曜日の朝の活動をこれまでの読書活動から百人一首へとを切り替えて重点的に活動を行ってきた。本校で行っている五色百人一首は、富士川小学校で盛んに行われていた活動であり、保護者や地域ボランティアによる琢美小学校から続いている活動と併せて本校の特色の一つである。善遊館小学校となってこのように両校のいい伝統を受け継ぎ、更に発展させる形で活動を行ってきている。善遊館小学校としての地域と学校、保護者を繋ぐいい活動の一つである。これからも更にいい形で発展、継承していってほしい。
- ・善遊館教育推進会議の中でも山主委員から出された琢美地区の文化祭に地域学習を行った内容の発表を展示したことは、とてもいい活動を紹介した。地域学習で地域のよさを知った子供たちは、必ず地域を好きになるものだし、地域をよりよく知る機会となる。これからも続けてほしい。
- ・富士川地区の文化協会会長の甘利さんは、地域の歴史について地域に造詣が深く、地域の歴史をよくご存じである。機会を捉えて学校での学習に地域の人材を生かした学習を行ってほしい。
- ・子供から聞いた話であるが、校長先生の配慮で校長室で将棋やオセロを行うことを許して下さっていることが特性に特徴を持った子供たちには、ありがたいことである。どうしても人間関係を上手に作れない子供たちもいるので様々な形で休み時間を過ごせることが出来る機会を作っていただくことが子供たちの様々な状態にいい影響を与えていると思う。
- ・学校評価の中の児童の自己評価の数値で、7名が授業が楽しくないと答えている。授業が分からないと答えている子供との相関関係を調べることで統計的な評価も加味してはどうか。
- ・学校としても統計的な調査については、検討しQ-Uというクラスにいる成員の個々の居心地のよさややる気について調査が出来る検査があり、業者委託をして統計的な調査を一学期末と二学期末に行っている。このことからクラス内の子供たちの人間関係に関する意識の変化や個々の子供たちのやる気の変化についても知る事が出来ている。これを生かして一学期末の結果から二学期の学級運営の方向性を決め、二学期に行った取り組みが子供たちにどのような形で表れてきているかについて、個々の担任が取り組んでいる。管理職が全体を見てもクラスの間人間関係がよくなっているのが今のところいい状態であると考えている。但し、今後とも継続してこの状態を保つように努力を続けることや御指摘のあった面についての統計的な手法も取り入れてより綿密に子供たちやクラスの状態を把握していく事が大切であると考えている。

### ①「よりよい人間関係づくり」について

- ・単級であるということもあり、クラスの間関係の中でなかなか自分の思ったことを言えない子供がいる事やクラス全体では言えないような他の人のことでいいと思っっているようなことについて校長先生だけが内容を知る意見箱を3学期から試験的に設置してみることにした。始業式で子供たちに主旨の説明を行い、箱の名前についても子供たちを含め他全教職員にも募集し、上がったものから投票で「絆BOX」と命名することにした。現在までに約一か月で35通の投書が寄せられている。多くは、褒められたことや助けてもらったことなどを投書してくる場合が多いが、中にはいじめられたことについて訴えてくる子供もいる。プラスのことを書いてくれる子供が多いが、まだまだ未知数な部分も多い。
- ・今のところ校長先生で留まっているのであれば担任にも伝えてはどうか。
- ・今後の推移を見ながら、内容的に担任を通して指導の必要なものについては、担任にも伝えながら個々の問題解決にあたっていく形をとっていく。
- ・今のところポジティブなものが多いようだが、直接本人に伝えられるようになるとさらに良いと思う。褒められることで人間関係が良くなることは多いものである。
- ・あいさつについては、大人の側も今どんな挨拶をすればいいのかというところで戸惑っていて挨拶が出来ないということがある。
- ・英語のように "Good morning" だとか "Good afternoon" などとわかりやすい挨拶であればしやすいところもある。
- ・いつまでは「おはようございます。」であるとかいう事ははっきりするとしやすい面もある。

### ②「言語活動の充実」について

- ・学力学習状況調査や学力把握調査の結果を見ると、本校の子供たちは、無回答率が少なく、学力的にも高くなっている部分が多い。
- ・4年生で市の指定を受けて取り組んできた少人数指導についても今年度は、国語、算数の継続と他教科への発展も行ってきた。その良さを生かした取り組みを行う事が出来たので、効果的な学習を展開する事が出来た。
- ・学習支援ボランティアの学生や地域や保護者で学習に関わって下さる方々、少人数指導加配、特別支援教育支援員など子供たちの学習に関わって下さる方々のおかげで今年度は、きめ細かい指導ができる環境である。
- ・今年度から4月当初のPTA総会の折にも、研究主任の方から家庭学習の重要性を強調し、家庭学習を重要視する取り組みを行ってきた。おかげで、御家庭での協力もあり、家庭学習をする習慣が子供たちにも定着し、内容の方も充実したものになってきている。
- ・自分の思いを伝えるという事での「書く」「言う」「聞く」という機会が少なくなっている。朝の読み聞かせなどは、文字に触れる機会であったり読書の幅を広げる機会であったり、聞く活動としても充実した活動の一つとなっている。今後も継続して力を入れていきたい。
- ・県のPTA協議会でいじめの問題についての内容での講演会があった際に、今のネットでのコミュニケーションでは、「？」一つで伝わり方のニュアンスが変わってしまうということが言われていた。例えば、「かわいくない」と「かわいくない？」では相手に伝わるものが全然違うものになる。アナログ的に話すことで微妙なニュアンスを伝えることが大切である。
- ・数字に慣れるということからいうと小さい頃、車のナンバーの計算を工夫して十にするという遊びのようなことをやっていたことがある。他にもいろいろなやり方はあるが遊びから学ぶという方法も方法の一つである。
- ・算数では、出した答えをあえて問い、子供たちが自分の解決について自分なりの言葉で説明する場面を作ることも大切である。

### ③「たくましい体づくり」について

- ・逆上がりの補助具については、効果が薄いのではないかと。腕の力を鍛える懸垂がきちんとできるようにして、逆上がりも上手にできるようにする。体力がつくと出来るようになることを

生かした教育が大切なのではないか。

- 学年単位の取り組みを縦割り単位で行う縦割りでの活動を生かした取り組みをしていく事で体力づくりにも生かしたいと考えている。
- 体力づくりの様子を伝えていく事で各学年や個々の状態の現状が分かるような形で実情に応じた対策をとって進めている。
- 自治会の取り組みでも異年齢で取り組むことで子供たちの上達が確かになることがある。
- 知力、体力とも上手に鍛えることが大切である。
- 縄跳びや一輪車など取り組む子供たちが一生懸命に取り組んでいる。この地域の子供たちのよい特色の一つである。
- ドッチボールなどの団体での球技を生かしていく事で投げることについての弱さを克服させていく取り組みも大切なのではないか。
- スポーツ少年団のコミュニケーションも体力づくりや人間関係作りには大切な場であると考えられる。

#### ④その他

- 将来～になりたいと思っていることや思わせる指導ということが大切である。
- 少子化に伴い、競争する経験を作り出すことも大切な経験ではないか。
- これから満たされた社会の中、AIに対抗した能力を身に付け社会に出ていく事が余儀なくされている子供たちにどういう形で更に子供たちに意欲を持たせていくかは今後とも大きな課題である。

報告書作成責任者 林 昌明 (PTA会長)